

平成25年7月24日

玄海町立小中学校基本構想等検討委員会 学校支援作業部会（#2）

1. 開会
2. 協議事項
 - (1)現組織と活動の把握(第1回会議資料参照)
 - (2)PTA等の組織について(資料No.1)
 - (3)国内外のPTA等の現状と今後(資料No.2)
 - (4)現組織の課題抽出と把握(資料No.3)
3. その他
 - ・小中一貫校のPTA等の組織編制や状況について、実施校への視察
4. 次回開催について
5. 閉会

(2)PTA 等組織について

①PTA 組織の成り立ち(大阪府 PTA 指導者の手引きより)

ア. 創設者：アメリカ ハースト夫人、バーニー夫人

イ. 設立の背景

(ア)19 世紀後半、豊かな繁栄の時代を迎えるが、子どもたちをとりまく環境は決して望ましいものではなかった。

(イ)子どもたちが健やかに成長していくためには、まず何よりも教育環境を整備しなければならないと考え、「母親の会」をつくり、運動を進めた。

(ウ)1897 年、ワシントンで全米母親大会を開き、「全国母親協議会」を発足。

(エ)子どもの全人格を健やかに育てるには母親だけの力では限界があることを反省。父親と教師に運動への参加を呼びかける。

(オ)1924 年「全国父母教師協議会」が結成。これが現在の P T A の母体。

(カ)現在、PTA 活動の盛んな国として、アメリカ合衆国、日本、カナダ、フィリピン等を挙げることができる。

ウ. 日本の PTA

(ア)1946(昭和 21)年、アメリカ教育使節団が、アメリカの成人教育に大きな役割を果たしている PTA 活動について紹介を行う。

(イ)1947(昭和 22)年、当時の文部省が「父母と先生の会－教育民主化のために－」という冊子を作成。PTA づくりを奨励

(ウ)1948 年にかけて全国的に PTA の結成が進む。

(エ)1950 年 4 月までの時点で、全国の小・中・高の約 98%の学校に PTA が生まれた。さらに 1952 年には「日本 PTA 全国協議会」が発足している。

②PTA 組織の在り方(文部省「父母と先生の会のあり方について」より)

ア. 目 的：児童生徒の健全な成長をはかること

イ. 存在意義：

(ア)親と教師とが協力して、学校および家庭における教育に関し、理解を深め、その教育の振興^Aにつとめる。

(イ)児童生徒の校外における生活の指導^B、地域における教育環境の改善、充実^Cをはかるための会員相互の学習その他必要な活動を行う団体。

ウ. PTA の役割

A. 親と教師とが協力して、学校および家庭における教育に関し、理解を深め、その教育の振興を行うため、相互の理解が必要であり、この相互理解に基づき、

(a)学校の教育計画の実施上必要な、家庭と学校の協力活動をすすめ、学校教育の充実に寄与

(b)家庭の意義、機能、およびその教育的役割等について理解を深め、家庭教育本来の機能を果たし得るよう家庭教育に関する学習活動等を行う

- B. 児童生徒の校外における生活の指導を行うため、
- (a) 学校の教育方針にもとづく校外の生活指導に協力する
 - (b) 健全な遊びや規律ある集団生活などを通して、児童生徒の心身ともに健全な発達をうながすよう適切な指導を行う
 - (c) 少年団体等の健全な育成をたすける
- C. 地域における教育環境の改善、充実については、
- (a) 児童生徒が生活する地域環境を教育的に改善
 - (b) 児童生徒の校外における生活の安全を確保

エ. 構成

学校に在籍する児童生徒の親および教師によって、学校ごとに組織される。
なお、この会の目的達成のためには、会の趣旨に賛同する親と教師が自主的にできるだけ多く参加することが望ましい。

オ. 運営

会員の総意によって民主的に運営され、特定の政党、宗派にかたよる活動や、もっぱら営利を目的とする行為は行わない。

(3)国内外の PTA 等の現状と今後

①日本の PTA 組織率 (日本 PTA 全国協議会_平成 19 年度)

全国 3 万 2098 校

都道府県 PTA 協議会加盟団体数 2 万 9904 団体

約 2,200 校は、協議会未加入あるいは、PTA がない。

②アメリカの PTA 組織率

全米 PTA 団体に属している PTA 数 約 2 万 3000 団体

しかし、全米の学校の 25%程度

残り 75%はそれぞれ独立した団体や PTO (PTA 団体に属していない PTA 団体)

などで構成される

PTA 加入について、毎年確認が行われ、加入＝自分ができる範囲で PTA 活動をするという意思表示となっている。

主な活動として、美術指導、図書整理や読書指導、作文添削、スポーツコーチ、学校周囲の交通整理、広報活動、子どものクラス役員、親睦会、講演会など自分の専門や趣味を活かせる分野で活動している。

③PTA 等の今後

ア. 改革を行う PTA

(ア)柏市立中原小学校(児童数約 760 人)

平成 15 年度よりボランティア制を導入。

自発的に集まった保護者によるボランティア 15 グループが活動中。

(イ)岡山市立西小学校(児童数約 1300 人)

平成 23 年度より PTA への入退会を自由とした。

初年度の前期加入率が 94%、後期加入率は 87%

(ウ)岐阜市立鏡島小学校(児童数約 700 人)

平成 24 年度より PTA への入退会を自由とした。

542 世帯のうち、加入しないのは 16 世帯

(エ)札幌市立札幌小学校(児童数約 440 人)

平成 25 年度より「保護者と先生の会」への入退会を自由とした。

また、専門委員会等をなくし、都度必要に応じてボランティアを募り活動する。

(イ)(ウ)(エ)の学校は、PTA は任意の団体であり、強制加入させられるものではないとの基本原則を導入。個々ができる範囲で、子供たちの健全な育成のために活動を行う。

イ. PTA と地域の関係

(ア)PTA に地域を加えた PTCA という組織

A. 長崎県教育委員会

(a)PTCA の必要性

- ・人間関係を築く能力に劣り、自己中心的で規範意識が薄く、自尊意識も持てなくなってきた子供たち。
- ・生涯学習の視点が広く社会に普及し、学校の地域社会への開放が望まれている。

(b)PTCA のポイント

- ・家庭・学校・地域社会が目標を一つにし、一体となった「共育」が可能。
- ・家庭や地域住民が学校サポーターとなり、学校教育に参加していくと同時に、地域活動を協働して行うことが考えられる。
- ・家庭・学校・地域社会の三者が、子どもの教育について緊密に連携した組織を目指す。

B. 高知県南国市稲生小学校

(a)PTCA 発足の発端

- ・小学校を核とした地域教育力の再生

(b)PTCA の主な活動

- ・週明けラジオ体操

週明けに地域の方と一緒に登校し、一緒にラジオ体操を行う。

地域の方が朝から動く姿勢を見せ「家庭の教育力を麻痺させた原因である夜型社会の浸透を食い止め、朝型社会の復権を行う」ことを目標

- ・食育活動への協力
- ・花育活動への協力 など

(4)現組織の課題抽出と把握

- ①現在の PTA・育友会の組織、活動などについて、課題と思われることを付箋紙に記入。
- ②記入された内容をグルーピング化
- ③グルーピング化された内容を次回までに取り纏め、次回の協議事項とする。